生存科学研究ニュース

VOL.17. NO.3　　2002. 5. 10 発行

発行　財団法人　生存科学研究所

〒104-0061　東京都中央区銀座4－5－1
電話 03-3563-3518　FAX03-3567-3608
Eメール　seizon@mx1.alpha-web.ne.jp

中山 昌作　評議員のご逝去を悼む

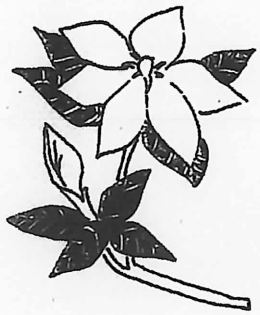
生存科学研究所の創設時から、研究所の常務理事ついで評議員を長く務められ、研究所の基礎を確立するために並々ならぬご尽力を賜りました中山昌作先生の突然のご訃報は私どもにとりまして、大変な驚きと悲しみでございました。ここに生存科学研究所を代表してご弔慰を申し上げ、心から先生のご冥福をお祈り申し上げます。

先生とは、私が日本医師会の研究会に参加していた昭和40年代の終り頃、研究委員会の席でお目にかかったのが、最初でございましたが、先生の委員会におけるご発言は、医療現場の実体験を踏まえて、それを医政にどう反映させるかという視点からの的確な指摘が多く、私は武見太郎会長に先生を常任理事として強く推挙申し上げました。先生は昭和５１年度から５７年度までの７年間にわたって日本医師会の常任理事を務められましたが、武見会長の信頼も厚く、医師会活動の理論構築の面でも会長を支える貴重な存在でありました。

武見会長ご逝去の後は、会長のご遺志である生存科学研究所の新たなる活動に夢を託し、熊谷洋理事長、小平敦専務理事の片腕として、鋭意研究所の運営に当たられ、その間『武見太郎記念論文集』の編集にも熱心に取り組まれました。

先生は温厚な人柄によって人間関係の融和にも心を配られ、私どもにとっては生き字引的存在でありましたから、先生を喪ったことは、大変残念でございますが、このうえは先生のご遺志を体し、生存科学研究所の今後の発展に微力を捧げる所存でございますので、どうかこれからも私どもをお見守りくださいますようお願い申し上げます。　　合　掌

生存科学研究所　理事長　　江見　康一

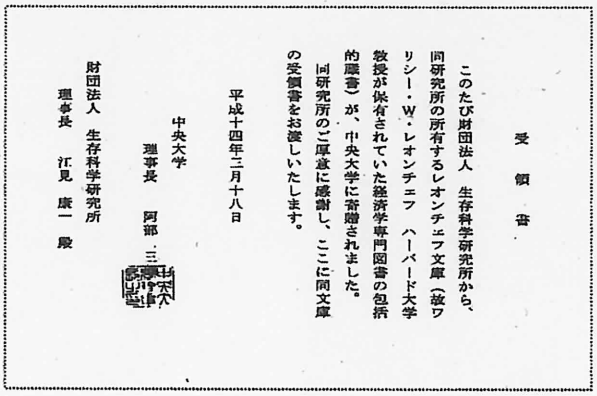


『レオンチェフ文庫』受贈式について

平成14年３月18日（月）、中央大学多摩校舎１号館５階、役員会議室において、生存科学研究所所有の「レオンチェフ文庫」を、中央大学に寄贈するための受贈式が行われた。

受贈式への参加者は次の通りである。

財団法人　生存科学研究所	理事長	江見 康一
環太平洋産業連関分析学会	会　長	宍戸駿太郎
学校法人　中央大学	理事長	阿部　三郎
中央大学	学　長	鈴木　康司
中央大学経済研究所	所　長	長野ひろ子
中央大学経済学部	教　授	栗林　　世



受領書

このたび財団法人　生存科学研究所から、同研究所の所有するレオンチェフ文庫（故ワシリー・W・レオンチェフ　ハーバード大学教授が保有されていた経済学専門図書の包括的蔵書）が、中央大学に寄贈されました。

同研究所のご厚意に感謝し、ここに同文庫の受領書をお渡しいたします。

平成十四年三月十八日

中央大学
理事長　阿部　三郎

財団法人　生存科学研究所
理事長　江見　康一　殿

受贈式は当日正午から行われた。最初に寄贈側の生存科学研究所江見理事長から「レオンチェフ文庫」誕生への経緯と、寄贈するに至った経過が述べられ、同文庫が中央大学図書館に所蔵されることによって一般研究者への利用が進むよう配慮されたいとの希望が述べられた。

ついで中央大学阿部理事長から生存科学研究所の厚意に対する深甚な謝辞が述べられ、「受領書」が生存科学研究所江見理事長に手渡されて受贈式は終了した。

なお、「レオンチェフ文庫」は、中央大学市ヶ谷キャンパスの新しい図書館に所蔵され、その一室に「レオンチェフ文庫について」の説明要旨と、W．レオンチェフ教授および武見太郎先生の年譜が併記されて掲げられることになった。

２１世紀世界の文明と生存の研究会

「２１世紀世界の文明と生存の研究会」第１３回は、平成１４年３月２３日（土）午後６時より生存科学研究所会議室にて開催された。今回は大分医科大学助教授、杉田聡氏をお招きして、「医薬分業論争史　ー武見太郎が担った役割ー」というタイトルでお話いただいた。

医薬分業は、欧米諸国の医療においては当然の制度として実施されているが、日本においては大部分の診療所で、医師は処方箋を発行せずに自ら調剤を行い、患者に薬を提供している。国立病院では医薬分業を推進しているが依然として低率である。この医薬分業システムはわが国になじまないか否か、明治維新以後、議論が続いてきた。戦後、連合軍の占領期の改革の一つとして医薬分業の完全実施が試みられたが、強制的医薬分業は実施されなかった。

明治７年（１８７４）に「医制」が発布されて、医薬分業の原則が示されたが、薬剤師の不足もあり、当然のように医師の兼業が認められていた。１８８９年の「薬律」によっ

て薬剤師の位置づけが明確化されてもなお、わが国の伝統的医師の役割として調剤を認めることになった。薬剤師を中心にして反対運動が続いたが、そのまま第２次世界大戦の終了を迎えた。

戦後改革の一環として、１９４９年に訪日した米国薬剤師協会使節団の強い勧告により、医薬分業の完全実施がうたわれた。それを受けて、サムズ准将は強く推進しようとしたが、当時の日本医師会副会長であった武見太郎は医薬分業反対論者として活躍した。その役割は大きく、現在の実施状況にまで多大な影響を与えている。

以上、話題提供を簡単に紹介した。この後、参加者から質疑があり、議論は活発に続いた。この研究会は今回をもって一応の終了とすることとなった。平成１４年度に予定されている新たな「武見太郎研究会」への序曲として、大変に興味深いお話をいただけたことに感謝したい。（丸井英二）

平成14年度研究会名簿（予定者を含む）

（◎責任者）

川崎病研究会

川崎　富作	日本川崎病研究センター理事長
加藤　裕久	久留米大学医学部小児科教授
谷口　　繁	岩手医科大学高次救急センター教授
千葉　峻三	札幌医科大学医学部小児科学教授
出口　雅経	出口小児科医院院長
◎ 内藤壽七郎	愛育病院名誉院長
塙　　賢二	塙小児科医院院長
松本　脩三	前日本赤十字社血漿分画センター所長

２１世紀におけるﾊﾞｲｵｴｼｯｸｽの構築研究会

青木　　清	上智大学生命科学研究所
赤林　　朗	京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻
◎ 大林　雅之	川崎福祉大学教授
掛江　直子	国立精神・神経センター精神保健研究所研究員
空閑　厚樹	早稲田大学人間総合研究センター
小林　槇雄	東京女子医科大学第一病理学教室
中島　理暁	(財)　医療科学研究所
野間千夏子	(株)メヂカルフレンド社
松田　正己	静岡県立大学看護学部地域看護学
村岡　　潔	仏教大学文学部仏教学科
森下　直貴	浜松医科大学

医療システム改革の基礎研究会

今中　雄一	京都大学医学部教授
遠藤　久夫	学習院大学教授
◎ 府川　哲夫	国立社会保障・人口問題研究所

循環型社会と生存科学研究会

赤沢とし子	那須大学講師
◎ 江見　康一	一橋大学名誉教授
大橋　照枝	麗沢大学教授
大渕　　寛	中央大学教授
○ 高瀬　　淨	秀明大学教授
広井　良典	千葉大学教授

武見太郎研究会

赤居　正美	国立リハビリテーションセンター研究所部長
大林　雅之	川崎福祉大学教授
小島　靜二	小島歯科クリニック院長
小林　廉毅	東京大学大学院医学系研究科社会医学専攻公衆衛生学分野教授
迫田　朋子	ＮＨＫ解説委員
杉田　　聡	大分医科大学保健学科助教授
田井　一郎	（株）東芝経営企画部
高木　廣文	新潟大学医学部保健学科教授
武井実根雄	原三信病院泌尿器科部長
手塚　圭子	コミー株式会社TBC総合研究所第２研究室室長
◎ 丸井　英二	順天堂大学医学部公衆衛生学教室教授
柳沢　幸雄	東京大学大学院・環境学研究系環境学環境プロセス工学教授
山本　　茂	徳島大学医学部栄養学科実践栄養学講座教授

代替医療と国民医療費研究会

大浜　宏文	ＮＮＦＡ Japan
小野　直哉	東京医科歯科大学大学院
久保田　裕	朝日新聞社
坂巻　弘之	医療経済研究機構研究部長
◎ 津谷喜一郎	東京大学大学院薬学系研究科医薬経済学客員教授
山口　泰宏	医道の日本社

委　員　会

自主研究中長期基本構想委員会

◎ 江見　康一	一橋大学名誉教授
大塚　正徳	東京医科歯科大学名誉教授
鈴木　雪夫	東京大学名誉教授・多摩大学名誉教授
丸井　英二	順天堂大学医学部公衆衛生学教室教授
府川　哲夫	国立社会保障・人口問題研究所部長

編集小委員会

青木　　清	上智大学理工学部教授
江見　康一	一橋大学名誉教授
◎ 鈴木　雪夫	東京大学名誉教授・多摩大学名誉教授
府川　哲夫	国立社会保障・人口問題研究所部長

生存科学研究ニュース

◎ 藤原　成一	日本大学芸術学部教授